

## 第 1898 回例会報告

令和 8 年 1 月 22 日(木)晴



### ◇会長告知◇会長 小口 直久

皆さん、こんにちは。  
本日も例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。  
本日は、私たち諏訪湖ロータリークラブが長年にわたりご縁をいただいております、つつじヶ丘学園 園長 川瀬様をゲストにお迎えしております。日頃より、子どもたち一人ひとりの心と成長に寄り添いながら、日々現場で向き合っておられる園

長先生のご尽力に、心より敬意を表します。本日は、現場での実践や子どもたちへの想いを直接伺える大変貴重な機会であり、会員一同、心より楽しみにしております。

私たちクラブは、今期、つつじヶ丘学園の子どもたちと、さまざまな形で交流を重ねてまいりました。夏には納涼例会にお招きし、笑顔と歓声に包まれたひとときを共に過ごしました。また、白馬へのバスの旅では、雄大な自然の中で子どもたちが目を輝かせ、仲間と楽しみながら新しい体験に挑戦する姿がとても印象的でした。さらにクリスマス例会では、会員やご家族とともに温かな時間を共有し、子どもたちの笑顔に、私たちの方が元気いただいたような気がします。

これらの交流を通じて強く感じるのは、奉仕とは「与えること」だけではなく、「共に同じ時間を過ごし、共に学ぶこと」で感じられることもあるのではないのでしょうか。子どもたちのまっすぐな言葉や素直な反応に触れるたび、私たちは日々の忙しさの中で忘れかけていた大切なことに、ふと気づかされます。

少し話題を変えますが、先日、JC の新年会に出席する機会がありました。

今期の理事長は、北原厚子会員のお子さんである悠二郎君で、二年後には諏訪の地で全国大会を開催する予定と伺っております。その準備にあたり、「地域で頑張っているさまざまな団体の方々にも、ぜひ新年会に足を運んでほしい」とのお声がけをいただき、私も大変うれしく思い、喜んで出席してまいりました。

会場では、若い世代の皆さんが、地域の未来や次の世代への責任について真剣に語り合っており、その熱意と行動力に大きな刺激を受けました。世代や立場は違えども、「人を育て、地域をより良くしていきたい」という想いは、私たちロ

ーターリーが大切にしてきた理念とも深く通じるものがあると、あらためて感じた次第です。最後に余談ですが、ロータリーでいう「手に手をつないで」を思わせるような、皆で一列になって動く“ムカデ行列”のような体験もあり、思わず笑顔になる楽しい時間を過ごしてきました。  
最後に、本日の川瀬園長のお話が、今後の青少年奉仕活動や、つつじヶ丘学園の子どもたちとの関わりを考えるうえでのヒントになればと思います。本日もどうぞ最後まで、有意義な時間を皆さんと共に過ごしてまいりましょう。本日も、どうぞよろしくお願ひいたします。

### ◇米山奨学会表彰◇



高山巖会員(第3回)、成山秀幸会員(第2回)おめでとうございます

### ◇幹事報告◇幹事 成山 秀幸

#### 【報告事項】

- 今年度から、第5回米山功労者マルチプル報償品として、銀色バッジ(石なし)が加わったそうです。是非、次年度もご寄付のご協力をお願い致します。

#### 【受領文書】諏訪湖通信

#### 【出席報告とニコボックス】

出席報告		ニコニコボックス	
		利用人数	今回の金額
会員数	32人	9人	9,000円
出席対象	30人		
出席者数	20人	前回累計	422,000円
出席率	66.7%	累計	431,000円
前回修正出席数		目標額	70万円
前回修正出席率		達成率	62.1%



本日は青少年奉仕委員会担当例会です。ゲストとして、

つつじが丘学園園長 川瀬様を迎えております。お忙しい中、当クラブにお越し頂きありがとうございます。子供達との関わりを改めて考える貴重な機会です。卓話を楽しみにしております。本日も最後まで宜しくお願い致します。

小口直久  
川瀬園長先生、本日は宜しくお願いします。 萩田均  
川瀬園長先生、お忙しい中ありがとうございます。お話楽しみにしております。 宮坂英貴  
毎年、川瀬先生お越し頂きありがとうございます。

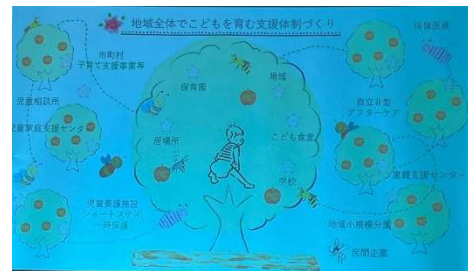
小笠原仁  
先週の日曜日はRLIの勉強会でした。何と、一番わかりやすく素晴らしいファシリテーターは、当クラブの会長でした。 五味弾



児童相談所に相談が来る子供のうち、認められて施設には入れるのは、2%、100人の内2人だけです。残りの98人は家で困っているままだ、地域の支援ということになるが、どうしたらよいか分からず、そのままになってしまっているんです。

私としては、子供達には、つつじが丘で守られながらも、自立してい

てほしい、地域の人とどう関わっていけば良いのか、自分たちの施設の困ったことは困ったと言おうと。自分を守ってくれる人がこれだけいるんだ、ということ、子供ができるだけ小さいうちに分かってほしいです。つつじが丘に来る前は、そうじゃない環境で育っています。隙間を埋めてあげなければ、二本足で立って歩けません。今度、富士見町に地域小規模多機能施設ができます。そうすると、つつじが丘学園だけじゃなくて、子供達と母親も守れます。



最後に、私たちが蜂のようになりながら、個人の困りごとに寄り添い、諏訪地域にもつつじが丘のような小さな施設ができ、

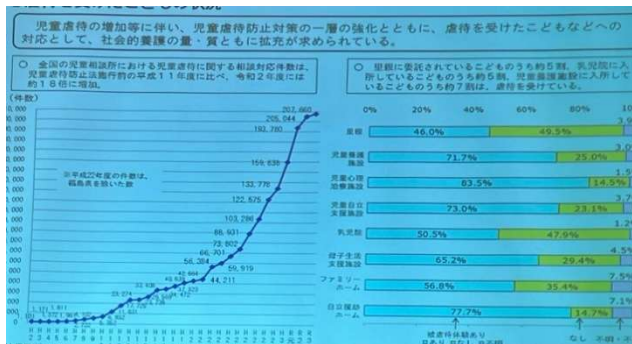
その施設と困っている人、困りそうな人をつなぐ、なるべく子供が親と離れない環境で、地域の皆さんと子育てをしていくことを目指していきたいと思っています。皆様のご協力を宜しくお願い致します。



◆例会内容◆  
青少年奉仕委員会担当  
つつじが丘学園園長  
川瀬勝敏様



こういった施設は社会の影響を受けやすいです。安倍元総理が暗殺された時の裁判の様子が報道されています。加害者の妹が、「お兄さんを幼い頃に児童養護施設に入れれば良かった」と話しています。いわゆる宗教虐待という形で、長男・彼・妹が苦しみながら生活していて、長男は自殺しています。彼が犯した犯罪は、何ら許されることではありませんが、残された彼は、誰に頼ることもできず、相談することもできず生きてきたんだと思います。もっと早く、施設が彼らを助けられなかったか、残されたまだ若い妹が、これから生きていく環境はとても過酷です。そういった子供や家族が、自分の力ではどうすることもできない時に、社会や地域が支えてあげる必要があると思います。僕は、諏訪地域でそういったことを起こしたくないので、つつじが丘学園で24時間365日頑張っています。



虐待の全国の件数は、年間20万件と高止まりが続いています。しかしこれは、児童相談所が発表している数字なので、本当はもっとあります。小学校は家庭訪問をしなくなりました。学校の先生が、民生委員のように家族のことも知って見ていたものが、もうありません。だから、つつじが丘学園に来る時には、非常に重いケースになりますし、法律上本当に困窮しないと施設に来られないようになっています。だから、つつじが丘学園に来てから自立させるのが難しいのです。

**近況報告**

小林聖仁会員が、つつじが丘学園の子供達と餅つき交流会に参加されました